

「化学と工業」誌は、日本化学会が機関誌として本会会員に配布しているもので、その発行部数は毎月約3万部である。本会会員（本誌読者）は、官公庁・企業などの研究者や技術者、小・中・高等学校・大学の教員、大学生・大学院生など、化学にかかわる様々な職業、専門分野の方々である。したがって、本誌は個々の会員にとって各自の専門分野の情報誌というより、化学関連分野の総合情報誌という位置づけが強く、その趣旨に沿って記事の企画と編集を行っている。執筆に当たっては、下記の内容にもご配慮いただきたい。

1. 本誌では、化学諸分野における新規な概念や研究方法あるいは化学各界の動向などを簡潔明瞭に紹介し、その分野に精通する読者のみならず、専門外の読者にとっても興味を持って読んでいただけるような内容を提供することを目的としている。
2. 本誌に掲載する記事は、「総説」や「総合論文」ではなく、その内

容について専門外の読者に気軽に読んでいただける「解説」として

3. 記事の内容構成と表現に当たっては、高度な内容を平易に表現することを目標としていただく。一例として、大学1～2年生の知識程度で読めるように配慮することで、専門外の読者にもわかりやすい内容とする。特に、題名や導入部（冒頭の要約など）は専門外の読者にも魅力あるものとなるように工夫していただきたい。
4. 文章のみでは内容が理解しにくいこともあるので、特に「特集」や「私の自慢」などの記事欄では、読者にとって本文の理解が容易になるように、図表を効果的に使用していただくことも重要である。刷り上がり1頁に対して図表を少なくとも1枚の割合で入れていただき、フルカラー印刷の特長を生かして視覚的にも魅力ある記事となるように執筆していただきたい。

1 各欄の内容と執筆要領

■ 依頼原稿

- a) 巻頭言（刷り1頁（約1,200字））
本会役員および編集幹事会より推薦された方が執筆する。
 - b) 論説（担当：論説委員会）（刷り2頁（約3,300字））
化学、化学技術関連の時事テーマを随時取り上げ、それに対する化学者としての良識的見解を執筆する。
 - c) OVERVIEW（刷り3頁（約4,200字））
その時々にあったニュース性のある記事を外部のサイエンスライターに依頼し制作する。
 - d) 我が社の自慢（刷り3頁（約4,200字））
化学関連企業の注目製品や技術の紹介記事を外部のサイエンスライターに依頼し制作する。
 - e) CHEM×STORY（刷り3頁（約4,200字））
最近の話題を外部のサイエンスライターに依頼し制作する。
 - f) 特集（刷り2頁（約3,100字）、刷り3頁（約5,000字）、刷り4頁（約6,700字）、総計15頁目安）
学術的総説、化学技術的・社会的内容を執筆する。
 - g) Gallery（刷り2頁（約1,700字））
新規技術や製品、国際シンポジウム、テーマを絞った特集企画などのホットな話題を広告とともに紹介する。
 - h) 委員長の招待席（刷り2頁（約3,000字））
編集委員長が企画し、その時々話題や歴史的事項など会員にとって興味あるテーマについて執筆する。
 - i) 話題（刷り2頁（約4,000字））
特に分野などを特定せずに会員にとって興味ある話題について執筆する。
 - j) 私の自慢（刷り3頁（約5,000字））
第一線で活躍している、筆者自身の研究のポイントを執筆する。
 - k) 飛翔する若手研究者（刷り3頁（約5,000字））
第一線で活躍している若手研究者がホットな研究のポイントを執筆する。
 - l) ディビジョントピックス（1件につき刷り0.5頁（約900字））
ディビジョン内で話題となっている研究成果、社会的に注目された研究成果、将来的に可能性が見込まれる研究成果、等を紹介していただき、会員間の知識の共有をはかる。
 - m) BCSJ/Chem Lett グラフィカルアブストラクト（刷り3頁）
BCSJ/Chem Lett の掲載論文紹介。
 - n) 化学会発（刷り1頁（約1,600字））
本会各部門、各委員会が寄稿する。
 - o) 支部だより（本会7支部）（刷り1頁（約1,600字））
支部自慢を中心に支部内の動きなどについて毎号1支部1件を寄稿する。
 - p) 部会だより・研究会・新領域研究グループ（刷り1頁（約1,600字））
部会、研究会、新領域研究グループが寄稿する。
 - q) CCI サロン（ケミストの趣味／この人、紹介／気まぐれ読書ノート／留学生から見た日本の研究環境）（刷り各1頁（約1,800字））
編集委員会から推薦された方が執筆するか、または会員が寄稿する。
 - r) 編集者の独り言（刷り0.5頁（約1,000字））
編集委員長・理事・幹事・委員が担当執筆する。
 - s) 推戴・表彰
名誉会員・フェロー、表彰関係記事。受賞記事の掲載基準については総務部ガイドラインによる。
 - t) 弔辞・追悼（各刷り1頁（約1,000字））
- ### ■ 投稿原稿
- u) 会員から（刷り0.5頁（900字以内））
会員が寄稿する。採否は編集委員会の判断による。
 - v) 講演会・講習会（900字以内）
“主催者側からの依頼による講演などが中心の行事”の参加募集記事である。
 - w) 研究発表募集・プログラム（900字以内）
“一般応募による講演などが中心の行事”の発表募集記事およびプログラムである。
 - x) 掲示板（600字以内）
研究助成金・補助金・賞などの候補者公募、求文献、不用品の贈呈・交換

などの記事である。

y) 求人・求職

人事公募または会員の求職の記事である。

2 原稿作成上の注意（特集記事を例として）

- a) 題名（原稿にふさわしい題名）
- b) 副題（なくても可）
- c) 著者名および英文著者名（例）Taro YAMADA
- d) 導入文 本文とは別にタイトル下にレイアウトする。
- e) 本文（執筆容量に図表写真・文献を含む）
原稿は執筆要項に従い、Word ファイルに作成の上、図表・写真とともに電子データを下記原稿提出先へE-mail で送信する。執筆に当たっては下記に留意する。
【文体】 特集については「である」調にし、そのほかについては任意とする。また、読みにくい漢字にはルビを付記し、数字、英文字は半角を使用する。
【見出し】 15字以内程度。小見出しは極力使用しない。
【図表】 図中の文字および数字はMS ゴシックなどのゴシック体とし、縮小して掲載した場合に配慮した文字サイズとする。また、カラーが映えるような図表とし、本文とともに添付ファイルにて送信する。
※図表をほかの雑誌から引用する場合は、著者が転載許可を得るとともに出典を明記する。
【写真】 カラー写真で720dpi、白黒写真で360dpi以上のもの、プリント写真（光沢のあるもの）を用意する。
※刷りりはフルカラー印刷となるので、可能な範囲でカラフルな図・写真を用意する。
【図表写真の説明文】 図表の説明文はそれぞれの図表の下側に100字以下で記載する。
【用語解説】 専門的な用語については、用語の右肩に（*1, *2, …）を印し、非専門家にもわかるように解説を記載する。
【文献】 New CSJ Style for References and Notes を参照する。
i) 文献は該当する場所の右肩に1), 2,3), 4～6) のように通し番号をいれ、最後にまとめる。
ii) 文献の略し方は、化学便覧（基礎編）、Chemical Abstractsの省略名に従う。日本語雑誌は略記せず正式名で記す。また、外国書については慣行に従う。
iii) 複数の著者名は原則としてすべて記入し、H. Anderson et al. などとしない。著者名は、漢字の場合は姓を、欧字の場合は姓に名のイニシャルをつけて記す。
iv) 掲載例
〔1〕雑誌の場合
1) 化学太郎、化学と工業 **2006**, 59, 573.
2) 金子 達、明石康弘、馬場裕介、生物工学 **2006**, 81, 182.
3) W. A. Phillip, J. P. Birk, E. J. Yezierski, *J. Chem. Educ.* **2006**, 80, 157.
〔2〕単行本の場合
1) 日本化学会編、化学便覧（基礎編）、改訂4版、丸善、**1993**.
2) 田部浩三、竹下常吉、酸塩基触媒、産業図書、**1996**, 180.
3) F. A. Cotton, G. Wilkinson, P. L. Gaus, in *Basic Inorganic Chemistry*, John Wiley and Sons, Inc., New York, **2003**, Vol 28, pp.349-353.
f) 筆者紹介（著者名、勤務先・役職名、経歴、専門、趣味、E-mail 等）
〔例〕日化太郎 京都国立大学工学部応用化学科 教授。
〔経歴〕平成〇年〇〇修了、〇〇を経て〇年から現職。〔専門〕光物理化学。
〔趣味〕読書、音楽鑑賞。E-mail: abcdefg@hijklmn.ac.jp
g) 連名はスペースの都合により2名以内とし、それぞれ筆者紹介を用意する。2名を超える方々は本文中で最後に名前を紹介するなどして対応する。
h) 筆者肖像写真は明瞭な証明書用の写真などを電子データで添付送信する。
i) 校正は、原則として、PDF化した初校正を著者へ送信することで実施する。
j) 原稿料は、依頼原稿について本会規定により支払う。
k) 別刷りは作成しない。著者から希望があった場合は掲載記事PDFファイルを事務局より送信する。
l) 原稿提出先
101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
公益社団法人日本化学会 学術情報部 化工誌編集委員会
TEL: 080-7397-9742 FAX: 03-3292-6319 E-mail: kakoshi@chemistry.or.jp
※なお、以上に属さない原稿の採否については、編集委員会が判断する。